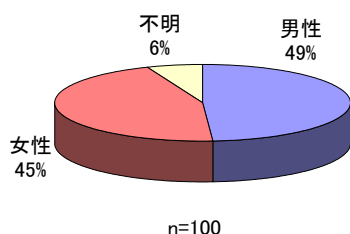


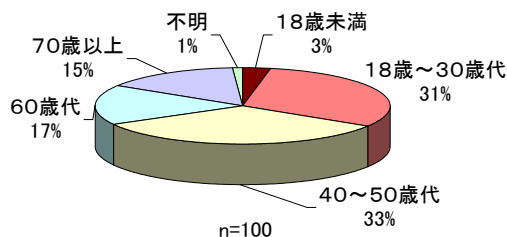
旧玉川水道道路における自転車レーンの整備効果

1. アンケート回答者属性

①住民アンケート

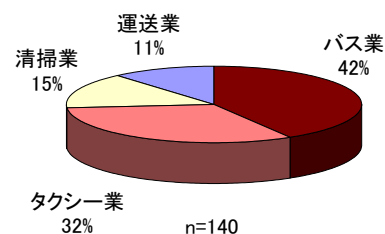


男女構成比



年齢別構成比

②事業者アンケート

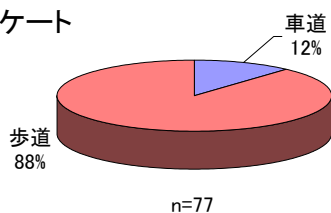


職業構成比

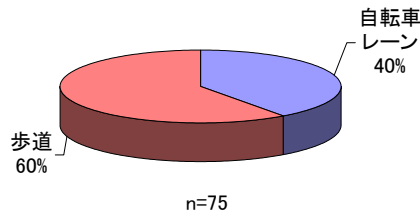
2. 自転車レーンの利用実態

住民アンケート及び交通量調査より、自転車レーン整備前後を比較し、自転車利用者の車道（自転車レーン）、歩道別の利用実態を把握した。

①住民アンケート



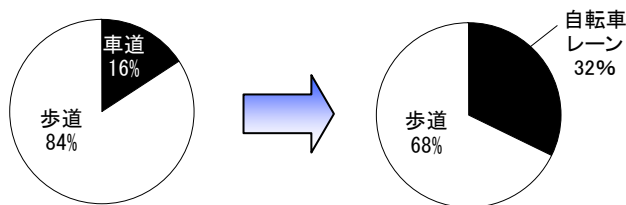
整備前



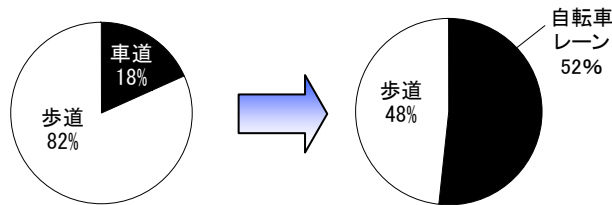
整備後

整備前後を比較すると、歩道から自転車レーンへ約3割移行している。

②交通量調査



一日の利用実態（6:00～20:00）



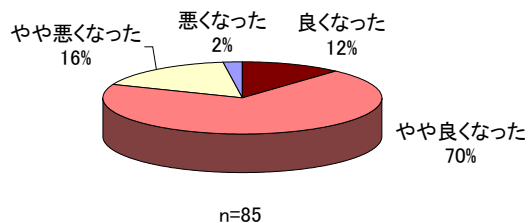
朝ピーク時の利用実態（7:00～10:00）

一日を通じて歩道から自転車レーンへ移行した人が増加している。特に歩道が混雑する朝の時間帯で、自転車レーンの利用者が多くなり、約2割から約5割へと増加した。

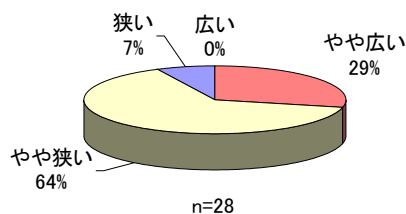
3. 歩行者・自転車・自動車の利用空間に対する印象

自転車レーン整備前と比較して、歩道、自転車レーン、車線の幅について、それぞれの利用者の感じ方を把握した。

①住民アンケート

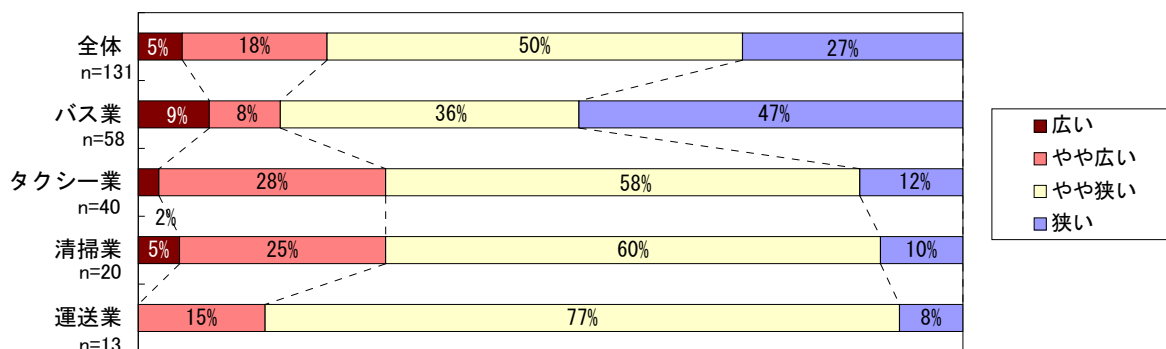


歩行空間に対する感じ方



自転車レーンの幅に対する感じ方

②事業者アンケート



車線の幅に対する感じ方

歩行空間は、歩行者の約8割の人が、「良くなった」、「やや良くなった」と感じている。

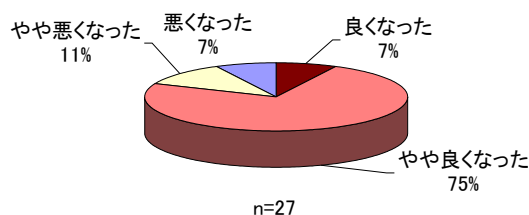
自転車レーンの幅は、自転車レーン利用者の約7割の人が、「狭い」、「やや狭い」と感じている。

車線の幅は、「狭い」、「やや狭い」と感じている事業者が多く、特に車両幅が大きくなるバス業では、約5割の人が「狭い」と感じている。

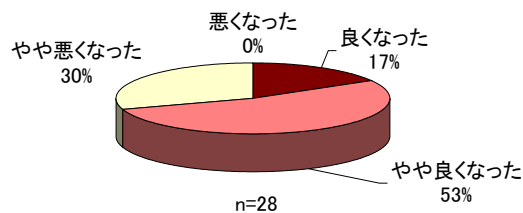
4. 安全性・快適性に対する印象

歩行者、自転車レーン利用者、自動車運転者の安全性・快適性に対する印象を把握した。

①住民アンケート



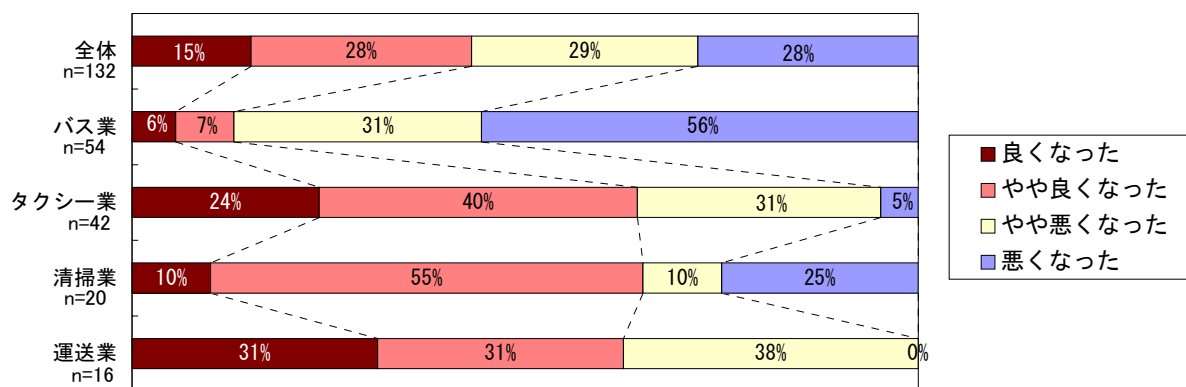
歩行者の安全性・快適性に対する変化



自転車レーン利用者の安全性・快適性に対する変化

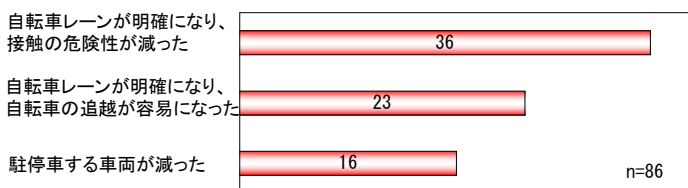
歩行者は、約8割の人が、安全性・快適性について「良くなった」、「やや良くなった」と感じている。また、自転車レーン利用者は7割の人が、安全性・快適性について「良くなった」、「やや良くなった」と感じている。

②事業者アンケート

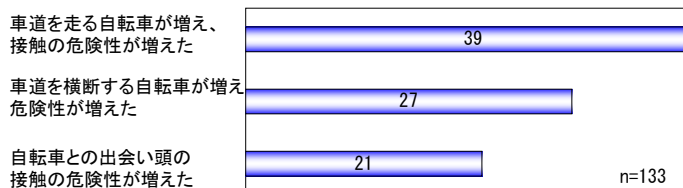


自動車運転者の安全性に対する評価

「良くなった」、「やや良くなった」と回答した人の理由(上位3つ)



「悪くなった」、「やや悪くなった」と回答した人の理由(上位3つ)



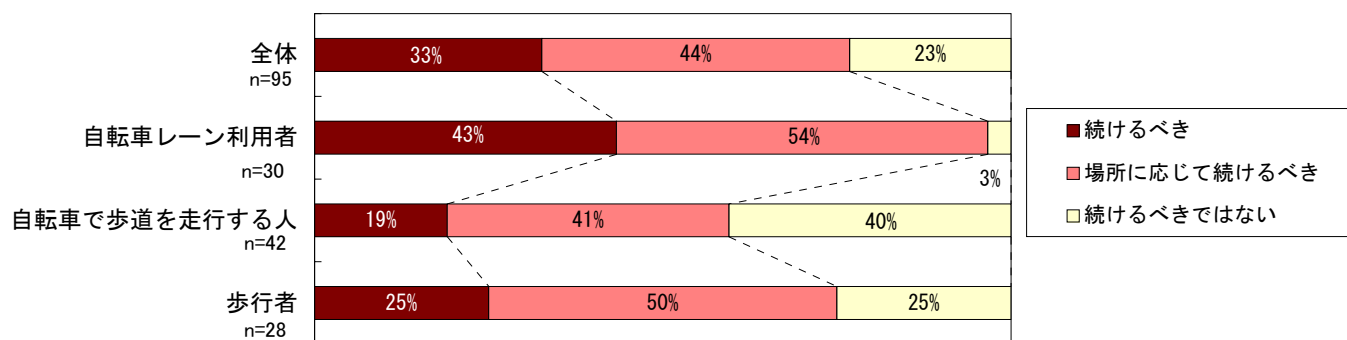
自動車運転者の安全性の変化に対する主な回答理由(複数回答)

バス業を除く全ての業種で、6割以上の人が、整備前と比較して安全性が「良くなった」、「やや良くなった」と評価しているが、バス業においては、約9割の人が「悪くなった」、「やや悪くなった」と評価している。

5. 今後の整備について

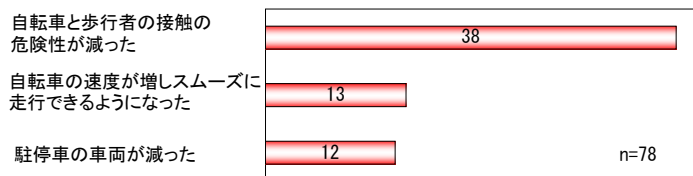
住民アンケート及び事業者アンケートより、自転車レーンの今後の整備についての意向を把握した。

①住民アンケート

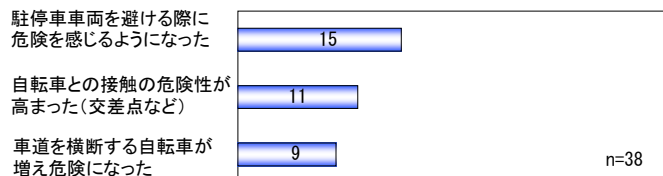


自転車レーン整備の継続について

「続けるべき」、「場所に応じて続けるべき」と回答した人の理由(上位3つ)



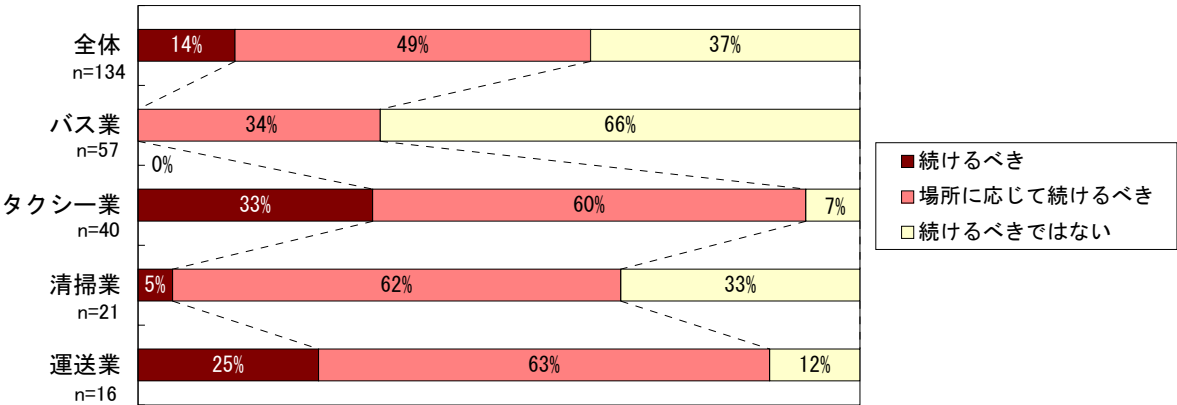
「続けるべきではない」と回答した人の理由(上位3つ)



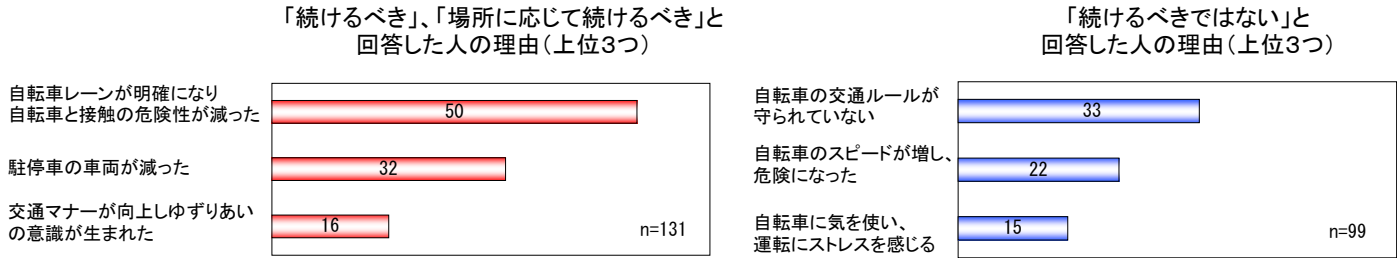
住民における整備の継続意向に関する主な回答理由(複数回答)

今後の整備について、8割近くの人が「続けるべき」、「場所に応じて続けるべき」と考えている。その理由として、自転車と歩行者の接触の危険性が減ったことなどが多い。

②事業者アンケート



自転車レーン整備の継続について



事業者における整備の継続意向に関する主な回答理由(複数回答)

今後の整備について、タクシー業、運送業で約9割の人が、清掃業で約7割の人が「続けるべき」、「場所に応じて続けるべき」と考えているが、バス業においては、7割近くの人が「続けるべきでない」と考えている。

今後の整備については、大半の事業者が肯定的であるが、車両幅が大きくなるバス業者では、否定的な意見が多い。